

科目名	生薬学		
英語名	Pharmacognosy		
開講期	後期（秋学期）月/2	選必区分	大阪医科薬科大学薬学部（必修）・関西大学（選択）
単位	大阪医科薬科大学薬学部 1・関西大学 1		
代表教員氏名	芝野 真喜雄		
代表教員以外の担当者			
授業の目的と概要			
<p>生薬は人類が自然の恵みを利用して作りあげてきた薬物であり、各国の伝統医療や民間療法に使用されている。一方、我が国の現代医療では、様々な疾病治療に漢方薬（伝統医療）が取り入れられており、それらの漢方薬を構成している生薬の知識がより一層必要になってきている。この授業では、各生薬の実物や、基原植物のスライド（写真等）を用いて、日本薬局方に記載されている代表的な生薬について解説する。さらに、薬用植物園での観察会を実施し、重要生薬の基原植物や薬用部位、有毒植物について実物を観察することで理解を深める。</p>			
授業の目的（なぜ本科目を学ぶのか）			
<p>本授業では、日本薬局方記載の生薬を中心に、その基原、性状、含有成分、品質評価、生産と流通、歴史的背景についての基本的知識を修得する。さらに、臨床で使用される漢方薬について理解するために、漢方生薬の経験的薬能や副作用についての知識を修得する。</p>			
授業の方法			
教科書を用いての講義形式で授業（対面形式）を行う。また、観察会（野外学習）を取り入れる。			
アクティブ・ラーニングの取組			
<p>民間薬などについて薬用植物園などで調査し、課題レポートを作成する。さらに、見学会では、授業で取り上げた生薬について各自で課題を決め、観察レポートを作成する。詳細な課題例については、授業内で説明する。</p>			
成績評価			
<p>大阪医科薬科大学薬学部：定期試験結果（70%）、課題レポート（20%）、観察会で提出したレポート（10%）により評価する。</p> <p>なお、本科目の定期試験の出題内容には「薬学連携演習3」で学習する事項も含まれる。</p> <p>関西大学：6回以上の授業出席者に対して、最終レポート（50%）、出席状況（50%）により評価する。</p>			
試験・課題に対するフィードバック方法			
試験答案を開示し、再試験受験対象者には解説を行う。（各レポートの採点結果も開示する。）			
実務経験を有する専任教員名／実務経験を活かした実践的教育内容			

SDGs 17 の目標との関連			
3.すべての人に健康と福祉を／12.つくる責任 つかう責任／15.陸の豊かさを守ろう			
教科書・参考書等（書名・著者・出版社）			
教科書	『ミニマムファクター漢方生薬学（第3版）』・芝野真喜雄・京都廣川書店		
参考書	『生薬単一改訂第3版』 伊藤美千穂・北山隆監修／原島広至 著・丸善雄松堂 『実践漢方生薬学 第2版』 小池一男・川添和義 著・京都廣川書店		
授業計画			
回数	項目	到達目標・授業内容・コアカリ番号	準備学習（予習・復習、事前事後学修）の具体的内容と必要な時間
1	総論 民間薬 医薬品原料生薬 （アヘン、ロートコンなど） 漢方生薬の性質 各論 カンゾウ	日本の民間薬や漢方薬に使用される生薬の性質、流通や資源確保、歴史などについてカンゾウを例にして解説する。	予習：教科書生薬編の総論および各論カンゾウ、アヘン、ロートコンを読んで概要などの基本事項を確認しておくこと。（2時間） 復習：ノートや配布資料について教科書で確認する。また、薬用植物園などを利用して原植物も確認すること。（2時間）
2	各論 ニンジン、コウジン、オウギ、タイソウ、ダイオウ、（センナ）	補気薬および瀉下薬に分類される生薬について、その基原、薬用部位、薬効、薬能、成分、用途などを解説する。また、副作用や使用上の注意について解説する。さらに、修治について解説する。	予習：授業項目に相当する生薬の解説を読んで概要などの基本事項を確認しておくこと。（2時間） 復習：ノートや配布資料について教科書で確認する。また、薬用植物園などを利用して原植物も確認すること。（2時間）
3	各論 マオウ、ケイヒ、ショウキョウ、カクコン	解表薬に分類される生薬について、その基原、薬用部位、薬効、薬能、成分、用途などを解説す	予習：授業項目に相当する生薬の解説を読んで概要などの基本事項を確認しておくこと。（2時間）

		る。また、副作用や使用上の注意について解説する。	復習：ノートや配布資料について教科書で確認する。また、薬用植物園などを利用して原植物も確認すること。 (2時間)
4	各論 オウレン、オウバク、オウゴン、サンシシ	清熱薬に分類される生薬について、その基原、薬用部位、薬効、薬能、成分、用途などを解説する。また、副作用や使用上の注意について解説する。	予習：授業項目に相当する生薬の解説を読んで概要などの基本事項を確認しておくこと。(2時間) 復習：ノートや配布資料について教科書で確認する。また、薬用植物園などを利用して原植物も確認すること。 (2時間)
5	各論 ブシ、カンキョウ、ウイキョウ、ゴシュユ	温裏薬に分類される生薬について、その基原、薬用部位、薬効、薬能、成分、用途などを解説する。また、副作用や使用上の注意について解説する。	予習：授業項目に相当する生薬の解説を読んで概要などの基本事項を確認しておくこと。(2時間) 復習：ノートや配布資料について教科書で確認する。また、薬用植物園などを利用して原植物も確認すること。 (2時間)
6	各論 シャクヤク、トウキ、ジオウ、ボタンピ、トウニン(キョウニン)、センキュウ	補血薬および駆瘀血薬に分類される生薬について、その基原、薬用部位、薬効、薬能、成分、用途などを解説する。また、副作用や使用上の注意について解説する。	予習：授業項目に相当する生薬の解説を読んで概要などの基本事項を確認しておくこと。(2時間) 復習：ノートや配布資料について教科書で確認する。また、薬用植物園などを利用して原植物も確認すること。 (2時間)
7	各論 チンピ、キジツ、コウボク、サイコ、ブクリョウ、チョレイ、タクシャ	理気薬および利水薬に分類される生薬について、その基原、薬用部位、薬効、薬能、成分、用途などを解説する。また、副作用や使用上の注意について解説する。	予習：授業項目に相当する生薬の解説を読んで概要などの基本事項を確認しておくこと。(2時間)

			<p>復習：ノートや配布資料について教科書で確認する。また、薬用植物園などを利用して原植物も確認すること。 (2時間)</p>
8	<p>各論 ビャクジュツ、ソウジュツ、ハンゲ、キキョウ、センソ、ゴオウ、ボレイ、リュウコツ、セッコウ</p>	<p>利水薬、化痰薬、排膿薬に分類される生薬および動物生薬、鉱物生薬について、その基原、薬用部位、薬効、薬能、成分、用途などを解説する。また、副作用や使用上の注意について解説する。</p>	<p>予習：授業項目に相当する生薬の解説を読んで概要などの基本事項を確認しておくこと。(2時間) 復習：ノートや配布資料について教科書で確認する。また、薬用植物園などを利用して原植物も確認すること。 (2時間)</p>
9	<p>観察会</p>	<p>武田薬品・京都薬用植物園協力のもと、本学薬用植物園では観察できないダイオウなどの薬用部位や有毒植物について小グループ(10人ぐらいで1グループ)で解説者と共に見学する。さらに、代表的な薬用植物の外部形態の特徴についても理解を深める。</p>	<p>観察会までに学んだ生薬をもう一度復習し、観察会に臨むために2時間ぐらいの復習が必要である。また、観察会後のレポート作成に2時間以上は必要である。</p>